㉓ 峰相地区

打越木もれ日の森

行った日

県が「ひょうご豊かな森作りプラン」に基づいて、平成8年（1996）3月、打越が持っている林や野原を整備しました。散歩する道として北コースと南コースがあります。

大谷古窯跡

行った日

大阪四天王寺が戦争で焼けてなくなり、建て直す時に、建てた当時の跡を掘って調べたところ、「鋸歯紋複弁六葉蓮華紋」で飾られた鴟尾（屋根につけられた飾りの一種）のかけらが見つかりました。これと同じ種類の鴟尾のかけらが、打越の大谷窯跡近くから見つかっています。

大塚三郎右衛門の碑

行った日

岩崎山の東の端に大塚氏のお墓があり、そばには三郎右衛門の行いをたたえた石碑があります。石碑には、三郎右衛門は特に弓が上手で、深く浄土真宗を信仰し、本願寺の顕如上人を最も尊敬していたと彫られています。

固寧倉（刀出）

行った日

姫路城の殿さま酒井忠道が不作や災害に備えて米や麦を保存する倉としてつくりました。固寧とは中国の『書経』という本の「民ハ惟し邦ノ本、本固ケレバ邦寧シ」という言葉から名づけられました。掲げられた額の文字は、殿さまが幕府の儒者・林述斉にお願いし、その子の檉宇が書いたものをけやきの板に彫ったものです。

権頭六角公紀恩碑

行った日

明治33年（1900）、六角公の450回忌を記念して子孫の本城氏が建てた碑です。碑には、最初のご先祖さまである赤松氏が山名氏との戦いに負け書写山に逃げたが、やがて山を下り、荒地を切り開いて田畑にしたと書かれています。

「固寧倉」は姫路藩の領地内に288か所ありましたが、今はほとんど残っていません。固寧倉の特徴や仕組みについて調べてみましょう。

調べたこと、分かったことを書いてみよう!

遺跡・史跡、歴史上の名所
神社・仏閣、歴史的建造物
歴史上の人物など
祭り伝統行事
美術品
伝統芸能など
景勝
生物・花
町並み
その他

清水公照師

行った日

六角の東道家に生まれました。昭和50年（1975）に大僧正華厳宗管長、奈良の東大寺第207世別当になりました。昭和53年（1978）には東大寺第208世別当となりました。昭和55年（1980）には東大寺大仏殿の大修理落慶法要を中心となって行いました。昭和56年（1981）に東大寺宝厳院長老となり游叟と名のりました。

飛渡

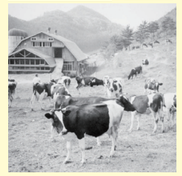
行った日

刀出橋の少し上流で、菅生川を石伝いに渡るところは今も飛渡といわれています。昭和51年（1976）の台風17号の洪水で、土砂にうもれていた平らな石が3個見つかりました。昔、花山法皇が性空上人を訪ねた時に渡った御幸道の飛渡石であると伝わっています。

白鳥台今昔

行った日

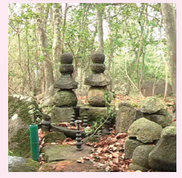
白鳥台のあたりには、戦争が終わってすぐに営農研究所がつくられました。牧場では数百頭の乳牛が飼われ、池の周りには山荘もありました。昭和45年（1970）に農場を閉めて、土地の開発が進められ、当時、白鳥小学校区だったので、白鳥タウンという名前がつきました。



峰相山と鶏足寺

行った日

峰相山は打越・石倉・下伊勢・上伊勢にまたがる高さ239.7mの山です。山の尾根に沿って近畿自然歩道が通っています。鶏足寺は、新羅の王子がつくったといわれ、奈良時代に大いに栄えましたが、鎌倉時代終わりごろにはすたれてしまいました。



六川

行った日

宝暦年間（1753～61）に刀出村と打越村が水をめぐって争い、打越村が大阪奉行所に訴えました。宝暦11年（1761）に打越村が負けてこの争いが終わりました。打越村が主張した「6割の水がこちらの村のもの」の「六分」が六川の名前として残っています。